

コロナ禍失業者受け入れ

農家の労働力確保

全農ふくれん

J A全農ふくれんは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で福岡県内で雇い止めになったり職を失ったりした人を、農業労働力として受け入れている。J Aグループと共に農業労働力の支援をする会社「菜果野アグリ福岡」と連携して人員を確保。7月豪雨では、被害を受けた県内の農家に同社から人員を支援した。農業労働力が不足する中、迅速に復旧作業が進み、被災農家から感謝の声が聞かれる。

災害復旧でも活躍

ふくれんは2017年から菜果野アグリ福岡と連携し、収穫や集出荷の作業で人員を求める農家に労働力を提供してきた。ふくれんが人手を必要とする管内のJ Aや農家の声を集め、必要に応じて農作業受託の活用を促してきた。

今年はコロナ禍で雇い止めになる



泥かき作業をする農作業受託の雇用者

(福岡県大牟田市でJ A全農ふくれん提供)

農作業受託会社と連携

人が増えたことで、県の緊急短期雇用創出事業をふくれんが受託。従来の労働力支援の仕組みを活用しながら、賃金など農作業受託にかかる費用を県が助成する。経費は、一部が農家の負担だが「通常の農作業受託に比べて約5分の1」（ふくれん営業開発部）という。

7月豪雨でJ Aみなみ筑後管内では、アスパラガスのハウスに水や土砂が流入した。特に被害が大きかった農家1戸が、約20分分の復旧作業を依頼。7月17日から8月7日まで、土・日曜日以外は毎日20人が、泥かきや畝にたまった砂を取り除く作業をした。かき出した量は40トに上った。

就労希望者は飲食店従業員や個人事業主らで、農作業未経験者が多い。1班10人のチームを編成。経験者をリーダーにするなどして作業が円滑に進むようにした。

J A園芸課の谷川俊英課長は「利用した農家は1人で畑を管理していたため、自力での復旧の見通しが立たなかった」と明かす。早期に復旧できたことでアスパラガスの植え直しの必要がなくなった。

県の事業を活用した支援は、9月末までを予定する。ふくれん営業開発部の正木栄作次長は「緊急時にはスポット的に人員を補える。今後も労働力不足解消のため、J Aと菜果野アグリ福岡による農作業受託の認知度を高めた」と話す。